

1 救急の総括

① 活動概要

令和5年中における救急の活動概要は、出動件数が10,429件、搬送件数が9,415件、搬送人員が9,451人である。

前年と比較すると、出動件数が594件(6.0%)の増、搬送件数が599件(6.8%)の増、搬送人員が597人(6.7%)の増となっている。

過去5年間を比較すると、令和元年まで毎年増加していたが、令和2年に大きく減少した(要因は新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる)。令和3年から再び増加し、令和5年は過去最高の出動件数となった。

② 出動状況

出動件数を事故種別ごとに前年と比較すると、件数が増加したのは急病の422件、転院搬送の108件、交通事故の65件、一般負傷の40件などで、減少したのは火災、水難事故、運動競技、加害などである。

出動件数を時刻別・事故種別で見ると、それぞれのピークは、急病で18時～20時、交通事故は16時～18時、一般負傷は16時～18時、転院搬送は12時～14時となっている。

③ 搬送状況

搬送状況を程度別で見ると前年比で、軽症が4,082人(4人減)、中等症が4,960人(624人増)、重症が409人(23人減)となっている。

年齢区分別で見ると、新生児を除く全年齢で急病が最も多くなっている(新生児は転院搬送が最も多くなっている)。

収容医療機関は、管内が5,400人、管外が4,051人で全体の42.9%が、管外の医療機関へ搬送されている。

④ 所要時間

所要時間の平均は、入電から現場到着までが9.6分(前年比較で0.5分短縮)、病院収容までが39.9分(前年比較で2.1分短縮)、総所要時間が79.5分(前年比較で5.3分短縮)となっている。

⑤ 隊員の行った応急処置

搬送人員9,451人に対し応急処置を実施している(実施率100%)。

実施回数が最も多いのは、観察活動の血中酸素飽和度の測定、次いで血圧測定、心電図の順となっている。

⑥ 不搬送件数

不搬送件数は全体で1,014件となっている。不搬送理由は「辞退(到着後)」が最も多く600件、次いで「拒否」の142件、続いて「明らかな死亡」の123件となっている。

⑦ 応急手当の普及啓発活動

令和5年中は、応急手当普及員講習を1回、上級救命講習を1回、普通救命講習を29回及び救命入門コースを92回実施し、合わせて3,064人に対し講習を実施している。

(事故種別の凡例)

1. 火 災 火災現場において直接火災に起因して生じた事故。
2. 自然災害 暴風・豪雨・高潮・地震等の自然現象に起因する事故。
3. 水難事故 水泳中の溺者又は水中転落等による事故。
4. 交通事故 全ての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故。
5. 労働災害 各種工場・事業所・作業場等で就業中発生した事故。
6. 運動競技 運動競技の実施中に発生した事故。
7. 一般負傷 他に分類されない不慮の事故。
8. 加 害 故意に他人によって傷害等を加えられた事故。
9. 自損行為 故意に自分自身に傷害を加えた事故。
10. 急 病 疾病によるもの。
11. 転院搬送 医療機関から医療機関への搬送。
12. その他 医師・医療資器材等の搬送及び、その他上記に分類不能のもの。